

人手不足時代の新しい業務のかたち ——RPAが実現する業務改革

株式会社 エムコネク ト 代表取締役 三原 一能

RPAが業務の効率化・自動化を実現

製造業をはじめとする多くの現場において、「人手不足」はもはや一時的な課題ではなく、継続的に向き合うべき経営テーマとなっています。少子高齢化による労働人口の減少や働き方改革の推進、ワークライフバランスの重視など、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした状況の中、業務の効率化・自動化を実現する手段として注目されているのが「RPA※」です。当社が提供するRPAサービスは、中小製造業の業務自動化に特化しており、多くのお客さまから高い評価をいただいています。

繰り返し業務を「仕組み化」という発想

中小製造業の日常業務には、多くの定型作業が存在します。たとえば、EDIからの受注取り込み（Webシステムへのログイン、データの検索・ダウンロード、ファイルの整理や転記）や、生産管理システムへの各種入力（受注登録、作業手配、帳票印刷）などです。これらの業務には「処理ルールや手順が明確」「例外が少ない」「繰り返し頻度が高い」といった特徴があります。

しかし、これらを手で行い続けることで、受注担当者や生産管理担当者は多くの時間を費やし、入力ミスや確認漏れといったヒューマンエラーのリスクも生じます。人手作業によって積み上がった工数はコストとなり、ヒューマンエラーは不良や手配漏れ、納期遅延を引き起こし、結果として得意先とのトラブルや信用低下につながります。

一方、RPAを導入した現場では「誰でもできる仕事はRPAに任せている」といった声をいただいています。この言葉が示すとおり、RPAの本質は「人を減らすこと」ではなく「人がやらなくて良い仕事を切り出すこと」にあります。

RPAは業務を「人の作業」から「仕組みで実行する作業」へと転換し、効率化と品質向上を同時に実現します。

RPAは業務を「人の作業」から「仕組みで実行する作業」へと転換し、効率化と品質向上を同時に実現します。

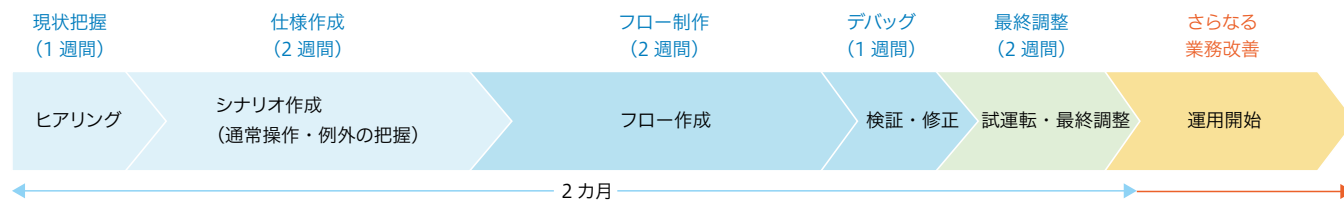
受注処理をRPAが自動実行

たとえば、EDIによる受注を行っている場合、毎日決まった時間にEDIシステムから受注データを取得し、社内システムへ登録する作業が発生します。

1 RPAの自動処理イメージ(EDIからの受注登録)



2 RPAの導入プロセス・導入後サポートのイメージ



実際のフローはご担当者に直接うかがい、当社が実際に操作できるまで内容把握・理解したうえで、フローのシナリオ作成（見える化）とソフト制作を行います。

RPAの導入と生産管理システムとの連携を行うことで、この一連の処理はすべて自動化されます。

指定時刻になるとRPAがPCを自動操作し、Webブラウザを起動してEDIシステムへログインします。未取得の注文情報や図面データ、3次元CADデータなどを取得し、ダウンロード、解凍、整理、共有フォルダへの配置までを一括で実行します。その後、生産管理システムとの連携で受注登録処理を自動実行します。処理完了後はメール通知が行われるため、ムダな待ち時間がなく、作業手配やプログラム作成などの次工程をスムーズに開始できます。

たとえば毎朝6時に処理を実行することで、「入社後に受注処理に追われる状態」から「**受注登録が完了した状態**」すなわち「**入社後すぐに業務を開始できる環境**」へと変化し、現場を止めない体制が実現します（図1）。

ある事例では、得意先のEDI更新が夜8時に行われるため、担当者がシフトを組み、残業で対応していました。しかしRPA導入後は、夜間に自動処理が行われるため人の対応が不要となり、残業は解消。定時退社が可能となりました。

これは単なる効率化ではなく、「**働き方そのものの変革**」と言えます。

現場理解に基づくシナリオ設計と継続的な改善

当社の強みは、単なるツール提供にとどまらず、現場理解に基づいたシナリオ設計から導入後の継続的な改善まで一貫して支援できる点にあります。RPAはあくまでPC作業を自動化するツールであり、実務を深く理解したうえで設計しなければ「**使える仕組み**」にはなりません。

導入時にはヒアリングだけでなく、実際の業務内容を詳細に把握し、操作レベルまで踏み込んでフローを構築します。また、例外処理も含めて整理し、実運用に即したかたちで自動化を実現します。必要に応じて業務フロー自体の見直しも行き、RPAで再現可能なかたちへ最適化します。**RPA導入は「業務の標準化」と一体**であるため、業務とITの両方に精通していることが重要です。

導入プロセスは、現状把握・仕様策定・打ち合わせ・シ

ナリオ構築・テスト・最終調整を経て、約2カ月で運用開始となります（図2）。

RPAサービスの価値は、導入後にこそ発揮されます。EDIの仕様変更やデータ形式の変更、新規得意先の追加など、業務環境の変化に迅速に対応する必要があります。また、Windowsやブラウザのアップデートにより動作に影響が出る場合もあるため、**日々のモニタリングとメンテナンスが不可欠**です。実際に、外部委託で構築したRPAが仕様変更に対応できず、使われなくなった事例も存在します。

当社では、導入後のサポートを含め、長期的な業務改善を継続的に支援しています。

安定運用を支える技術基盤

当社のRPAサービスでは、Microsoftの「Power Automate Desktop」を採用しています。WindowsやOfficeとの親和性が高く、既存環境へのスムーズな導入が可能です。

また、情報やサポート体制が充実しており、運用面でも安心して利用できます。さらに、Windowsのタスクスケジューラと連携することで、柔軟な実行設定が可能です。加えて、専用PCによる運用を基本とすることで、他業務の影響を受けない安定した稼働環境を実現しています。

人が価値を生み出す業務へ集中するために

RPAは単なる省人化ツールではなく、**人が本来担うべき「判断業務」や「創造的業務」に集中するための基盤**です。定型業務を自動化することで現場に余力が生まれ、その活用が企業競争力を大きく左右します。

当社は、現実的かつ実践的なソリューションにより業務改革の第一歩をご支援します。人手不足という課題に対し、「**業務のあり方を変える**」という選択肢をぜひご検討ください。

PROFILE 会社名 株式会社 エムコネクト
所在地 神奈川県伊勢原市石田309-3-403
電話 0463-20-9040
URL <https://www.mcnet.net/>